**第５課　神様の本性(1)** 2018年2月4日(主日)

◎ 賛美(一同) : 韓日21番、韓日29番

◎ 信仰告白(一同) :使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : ヨハネの福音書4章24節

◎ 本文朗読

◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

私達は神様の子どもです。子どもはその両親に似ていかなくてはいけません。私たちが神様の本性、すなわち神様のご性質を知り、そのご性質に似ていくことは、信仰生活の確信の中の一つだということが出来ます。

1. **霊である神様**

私達が知り、仕える神様は霊である神様です。したがって、神様は人間のような肉体を必要とされません。霊は物質ではありません。人間が持っている感覚(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)では、霊である神様を認識することはできません。霊である神様は、この世に存在する物質によるのでもなく、特定な形を持っておられません。よく人々は、神様が人間のように両手両足があり、目鼻口を持っていると考えます。その理由は、聖書に神様が人間の姿をもって現れたと記録されているからです。聖書にそのような表現が出てくるのは、人間が神様を完全に理解することが出来ないからです。だから神様は、私たちが神様を理解することができるように、人間の姿であらわれ、そのような表現を聖書に記録なされたのです。神様は肉の目で見ることのできないお方です。神様は信仰の目で見なくてはいけません。

1. **無限なる神様**

神様のご性質の中の一つは無限性であります。まず、神様は時間において限界がありません。神様はどのような時間の変化にも影響を受けられません。神様は永遠の前から永遠の後まで存在されるお方です。また神様は、時間の創造主であられます。創世記1章1節は“初めに”ということばで始まります。神様は時間を造られ、時間を調節しておられます。したがって、神様には始まりや終わりがなく、過去現在未来を超越したお方なのです。それゆえ2000年前のイエス様の十字架は、アダムとエバの罪から今の私達、そして審判のときまで生きるすべての人々の罪をたった一度できよめることができるのです。

神様はまた、空間においても限界がありません。したがって神様は全てのものの上におられる大いなるお方です。イザヤ40章15節は“見よ。国々は、手おけの一しずく、はかりの上のごみのようにみなされる。見よ。主は島々を細かいちりのように取り上げる。”と語っています。これと同時に、神様は全てのものの上におられるお方です。特に、神様が全ての創造物の内におられる特性を神様の内住と表現します。神様は全てのものを合わせ持つ大いなる能力によって、被造物の内面の小さな必要までを覚えられ満たして下さるお方です。

1. **唯一なる神様**

神様は唯一なるお方です。神様はご自分の他に神をおいてはいけないと命令されました。申命記5章7節は“あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。”と語っています。私たちが信じなくてはいけないお方は、ただ神様おひとりだけなのです。まず神様は、数においておひとりである方です。この世のどこにも、神様と比べることが出来る存在はありません。この世には、神様に仕えるキリスト教以外にも多くの宗教がありますが、どんな神々も神様のような方法で存在される方はおりません。この世の宗教は、人間の理性と判断で説明されます。しかし神様の創造と裁き、愛と救いの方法は、人間の理性を超越した方法、人間が自ら考えだすことのできない方法なのです。神様は唯一なる創造主であられ、唯一なる救い主、唯一なる裁き主となられます。

1. **人格体であられる神様**

神様は人間の要素である知、情、意を所有されるお方です。神様はこの世に存在する誰よりも、また何よりも、完璧な知性を所有しておられるお方です。神様は全てをご存じで、ご存じであるそのすべてを成すことのできる能力を持ったお方です。神様は全知全能なるお方です。また、神様は感性をもっておられます。公義なる神様は、私たちの罪に対して怒られます。同時に愛深い神様は、私たちをあわれまれます。愛する子供たちを見て喜ばれます。ゼパニヤ3章17節は“あなたの神、主は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。”と語っています。

神様は、この世を動かす原則や力ではありません。神様はご自身の意思を持って行われるお方です。ですから神様は、人のことばや行動の言いなりになられる方ではありません。むしろ反対に、全宇宙が神様のおことばに従順し動いているのです。

人格体であられる神様は、人間と交わることを望まれます。人間の創造の目的はまさにここにあります。愛の神様は、その愛を私たちに注がれるために私たちを創造されました。神様は私達の祈りに耳を傾け、こたえてくださいます。

神様は人格を持たれるため、人間の行いを見て、判断なされるお方です。神様は正しいこと、正しくないことに対する完璧な基準を持っておられます。したがって神様の御声を聞いて従順する時、私たちは完全な義の道を歩いていくことができるのです。

◎ マナの要約

<霊である神様>

1. 霊である神様は、この世に存在する物質によるお方ではなく、特定の形態をもっておられません。

2. 霊である神様を見るためには、肉の目ではなく、信仰の目を開かなくてはいけません。

<無限なる神様>

1. 神様は時空間の制限を受けられません。
2. 神様は宇宙的な広大なことから、私たちの内面の一番小さな変化まで干渉され見守って下さるお方です。

<唯一なる神様>

1. 神様は他の何にも比べることが出来ない唯一なるお方です。

2. 神様の以外の他の存在に仕えることは偶像崇拝です。

<人格体であられる神様>

1. 神様は知情意を持たれる人格的なお方です。

2. 人格体である神様は、私たちと愛の交わりを持つことを願われます。

◎ 日々の中のマナ

<隣の人とあいさつ>

1. 霊とまことで礼拝しましょう。

2. 神様は私たちの内に住まわれます。

3. 神様だけに仕えましょう。

4. 神様を心から愛しましょう。

<祈り>

1.霊である神様を見ることが出来る信仰の目が開かれるように祈りましょう。

2.私達の心の傷を主にゆだね、回復してくださるように祈りましょう。

3.神様以外の他のものに仕えたり、ついていったことを悔い改めましょう。

4.目に見えない神様を愛することができるようにしてくださいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>

となりの人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。